

倫理，政治・経済

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和4年度（第2回）大学入学共通テスト（以下「共通テスト」という。）の「倫理，政治・経済」の問題は，大問7問で構成され，「倫理」分野から4問，「政治・経済」分野から3問が出題された。設問は，「倫理」分野から16問，「政治・経済」分野から16問であり，設問は全て単独科目からの引用で，配点は50点ずつであった。

ここでは，本年度の問題について14ページに記載の8つの観点から分析し，「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針に基づいたものとなっているかどうかについて評価した。

2 内 容・範 囲

第1問 「真理」について（源流思想）

自分の見方や考え方，議論そのものとの考え方を，先哲の原典を読み取り，日常生活につなげて考察する学習過程が重視されている。やや平易な問題もあるが，全体としては，バランスの取れた標準的な難易度の大きな大問である。

問1 ソクラテス，イスラーム，スコラ哲学，ブッダの基本的な考え方について問われている。

②のイスラームにおける預言者ムハンマドとその言行・慣行の扱いに関しては，基本的知識から解答できる。

問2 人間の生き方をめぐる宗教や思想家の考え方について，先哲の言葉や思想の正確な理解が求められ，やや難易度が高い設問である。③のように宗教と近現代の思想との関連の理解を問う選択肢が増えるとよい。

問3 先哲の文章から読み取れる内容と知識を組み合わせる設問であり，ストア派の正確な理解が求められている標準的な難易度の問題である。

問4 資料の読み取りと源流思想の説明について，会話中の発言の正誤を判断する設問。原典の一部を2つ引用しているが，旧約聖書の説明について知識だけで誤りがわかる。資料の活用について，もう一工夫を期待したい。

第2問 「理想」について（日本思想）

仏教者の修行している図から判断させたり，先哲の思想を身近な事例を通して考えさせたりするなど，授業改善や生徒の学習改善につながる意欲的な取り組みが見られた。

問1 憲法十七条についての知識を問う標準的な難易度の設問である。

問2 本居宣長の真心について，自己との関わりにおいて思考し解答させようとするもので，思想は生きているものであるということを伝えると共に，生徒の学習改善につながる良問である。今後もこのような形式の設問を期待したい。

問3 安部磯雄や北村透谷は，それぞれ教科書での記載も少なく，その事績や思想内容に踏み込んで学ぶ機会が受験者には乏しいため，やや難易度の高い設問である。

問4 丁寧に読めば正答を導ける平易な設問なので，倫理的概念の理解を組合せるなど，もう一工夫を期待したい。

第3問 考えることについて（西洋近現代思想）

「考えること」についての会話や資料を元に，西洋近現代思想に関する知識だけでなく，思

考力を問う問題が含まれている。会話文、資料、メモがあり、多くの資料を読むのに時間がかかる受験者もいたと考えられる。会話文やレポートは、他者との対話によって思考を深めていくことを示し、科目として何が重視されているのかが伝わるような大問となっている。

問1 「魔女狩り」の絵画とそれに関する会話文を題材に、読解を通して、いつの時代であっても思考停止が少数者への迫害につながるということについて考えさせられる。

問2 経験論についての知識と、ロックの思想についての基本的な理解を問う標準的な難易度の問題である。

問3 ヘーゲルの弁証法についての理解を問う。やや平易な問題ではあるが、ヘーゲルの思想についての正確な理解が求められる。

問4 レポートを題材に、今まで読んだ二つの会話文を踏まえて読解力を問うやや難易度の高い問題。レポートを読むことによって、ⅡとⅢの会話文のつながりを整理し、高校生Fの思考の過程を確認することができる。参考にする文章の分量が多く、正答を導くのに時間がかかる。

第4問 未来世代に対する責任（現代の諸課題と青年期）

「未来世代に対する責任」に関する高校生の会話や資料をもとに、環境や情報社会の課題、現代のヒューマニズムなどについて、用語の暗記だけでは正答できない思想内容の正確な理解を求めたり身近な事例から考察・分析させたりする設問など、思考力・判断力・表現力等を試す良問が目立つ。資料等の分量が多く時間配分が難しい感もあるが、知識理解や読解したことを活用して的確な判断を迫る設問が多いことは、学校現場に対して科目「倫理」を思想史としてのみ取り扱うのではなく、現実社会の価値判断を先哲の思想を手掛かりに考えさせたいという出題者のメッセージが読み取れる。

問1 環境倫理から、国連人間環境会議や宇宙船地球号など教科書に掲載された用語であるが、知識を問うaで誤った解答が多く正答率が低い。現代の諸課題の単元で細かな知識を求めすぎると本来期待される探究的な側面から離れて説明的な授業に陥る懸念がある。

問2 具体的な日常場面からデジタル・デバイドの事例を判断させる設問。身近なことに置き換えて判断させる問題が増えていくことが、自分事で考えさせるきっかけになる。

問3 青年期や家族に関する設問で、基本的知識があれば消去法で正答が選択できる。子どもの発達がテーマであり、現代的課題が取り上げられると授業でも扱う材料になりうる。

問4 小説の一説を読み、また冒頭の会話文の文脈も踏まえて、会話文の高校生の考察を組合せる問題。会話文の意図を汲み取り、提示された小説も読解する必要があり、従前のリード文の趣旨を問うのみの設問よりも、より高い考察力が要求される良問である。

第5問 国の法制度と地方自治

「国の法制度と地方自治」をテーマにした政治分野の問題であり、場面設定としては、生徒が身近な問題に関心を持って地方自治に関わる事項を調査し、互いに意見交換をしながらまとめていくというものである。地方自治の本旨、日本国憲法で規定する基本的人権などについての主体的・対話的で深い学びに至る設問であった。全体としての難易度は標準である。

問1 地方自治の本旨についての基本的な知識・理解を問う、やや平易な設問である。

問2 日本国憲法で規定する政教分離原則の最高裁判決についての知識・理解を問う設問である。公権力の宗教への関わりについて深い理解が求められる、やや難易度の高い設問である。

問3 日本の農業に関する法制度の変遷についての知識・理解を問う、標準的な設問である。

問4 経済活動の自由について、最近施行された「住宅宿泊事業法（民泊新法）」を切り口として考察させる、平易な設問である。

問5 公法・私法に関する日本の法の分類についての基本的な知識・理解を問う，平易な設問である。

問6 日本の立法過程に関する設問である。議員立法，委員会主義，国会法についても正確な知識・理解が求められる，標準的な設問である。

第6問 経済主体の関係

「経済主体の関係」をテーマにした経済分野の問題であり，経済主体の経済活動等について多角的に考察させる設問である。難易度の高い設問も含まれるが，全体としての難易度は標準である。

問1 経済主体としての企業について，時事的な要素も含めた知識・理解を問う，平易な設問である。

問2 機会費用についての説明資料を読み解くことが求められる，標準的な設問である。

問3 公開市場操作の買いオペレーションについての正確な知識・理解を問う，標準的な設問である。

問4 市中銀行の貸出業務について，バランスシートを活用しながら，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，やや難易度の高い設問である。

問5 需要供給曲線が災害発生前後でどのように変化するのかを考察させる工夫された設問である。資料を丁寧に読み取った上で，思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，標準的な設問である。

問6 国別の物価水準比率から外国為替レートを求める購買力平価に関する設問である。思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる，難易度の高い良問である。

第7問 住民生活の向上に向けた住民の地方政治への参加

「住民生活の向上に向けた住民の地方政治への参加」をテーマにした政治分野と経済分野の融合問題である。主体的・対話的で深い学びを実現するための課題探究的な学習の進め方を示す形式をとっており，昨年度に引き続き高等学校の教育現場に対するメッセージ性のある問題である。全体としての難易度は標準である。

問1 戦後の日本の地方自治をめぐって起こった出来事の知識・理解を問う，標準的な設問である。

問2 地方分権改革後の国と地方自治体との関係についての基本的な知識・理解を問う，平易な設問である。

問3 地方財政の歳入の構成についての基本的な知識・理解を活用して，複数の資料を丁寧に読み取ることが求められる，標準的な設問である。

問4 雇用問題に対する民間企業の取組みについて，基本的な知識・理解を活用して資料を読み取る力を問う設問である。探究的な学習の発表場面を想定した，やや平易な設問である。

以上の内容から，問題の難易度はおおむね適切で，学習指導要領の定める範囲で出題されており，出題内容に大きな偏りはなかったと考える。

3 分量・程度

全体の設問数は，大問数7，総設問数32で，昨年度の共通テストの第1日程の設問数と同じ適切な設問数であった。試験全体の分量や文字数についても，「倫理」と「政治・経済」それぞれの問題作成方針を考慮すると適切なものであったと考える。

「倫理」の問題の難易度については，前年に比べれば難化といえるが，標準であろう。いずれの大問も出題内容・分野がバランスよく取り上げられ，思考停止や未来世代への責任などの現代的課

題が示されたところに、試験問題を通して若い世代に考えさせようとする出題者の意図が読み取れる。

「政治・経済」の問題の難易度については、標準的な難易度の設問が多く、適正である。具体的な概念や知識の活用が必要な設問も多く、良問もみられるが、さらに例えば、制度や理念に対する本質的な出題をするなどの工夫を求めたい。

4 表現・形式

各設問の文章表現・用語については、受験者にとっておおむね適切であった。

「倫理」の問題においては、昨年度につづき図画を素材とした設定があり、視覚的な資料から考察を迫る設問は授業の導入などに活用できそうで意義深い。現代社会が直面する課題や倫理的判断をテーマにした設問は、倫理を単なる歴史的事項で終わらせず、特に思想内容を具体的な生活問題などに転用して考えさせることが倫理を学ぶ意義に照らして大変有効だ。先哲の思想やそのキーワードの暗記だけで判別できないような問い方を一層充実させ、論理的思考力を問う工夫をすることが、倫理の学びのおもしろさを伝え、説明的な授業からの脱却を促すメッセージとしての役割を果たすことができる。

「政治・経済」の問題においては、全ての大問の場面設定が、生徒が主体となって活動したものとなっている。現代社会の諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な資質・能力と態度を育てるという「政治・経済」の科目の目標に照らして適切であったと考えられる。

5 まとめ（総括的な評価）

共通テストの2回目となった本年度の本試験の問題は、全体として、各大問で生徒が主体的に活動する学習過程を意識した場面設定がなされており、問題作成方針に照らして適切であった。特に、資料を活用しながら、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる設問の増加から、知識を単純に覚える授業からの脱却が高等学校等において期待される。

一方で、資料を活用したり読み取ったりするだけでなく、知識を活用して思考させる設問は、昨年度と比較して増えてはいないと考えられる。引き続き、今後も学習指導要領で求められる知識・技能を活用して多面的・多角的に考察し、主体的に探究させるような設問を期待したい。